

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について
(予報第6号(10月))

標記について、次のとおり発表します。

《10月の病害虫発生予報》

<果樹類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
みかん			黒点病			
			そうか病			
			ミカンハダニ			
果樹類全般		果樹カメムシ類				

<野菜類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			ミカンキイロ アザミウマ			
			ハダニ類			
きゅうり			うどんこ病			
				炭そ病・褐斑病		
			べと病			
				ミナミキイロアザミウマ		
			ワタヘリクロノメイ ガ			
トマト			コナジラミ類	葉かび病・すすかび病		
			コナジラミ類・ TYLCV			
しろな等 (キャベツ・ あかどな科野菜)				コナガ		
					ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)	

<その他>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き類 野菜類 全般				アブラムシ類・ ウイルス病		
			ハダニ類			
				ハスモンヨトウ		
						シロイチモジヨトウ
					オオタバコガ	
		ハモグリバエ 類				

《今月のトピックス》

【野菜類全般】 チョウ目(ガやチョウ)の幼虫(シロイチモジヨトウ、コナガ、ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)などが、増加しています。注意深くほ場を観察し、増加の兆しを感じたら防除を行いましょう。なお、ジアミド系殺虫剤(プレバソン、フェニックス、ベリマーク、ベネビアなど)は連用せず、他の系統の薬剤とのローテーション散布を心がけましょう。

■発生が平年より多く見られる病害虫

【あぶらな科野菜】 ハイマダラノメイガ

【野菜類・花き類】 シロイチモジヨトウ (注意報発表)
オオタバコガ

■現在、発生は平年並だが、今後の発生に注意が必要な病害虫

【あぶらな科野菜】 コナガ (薬剤抵抗性系統が増加している)

A 果樹

1 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒点病	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 ・10月の降水量は平年並か少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる枯枝を除去する。 ・収穫前日数が2週間以上必要な薬剤が多いため、薬剤散布は9月上旬までに行う。(散布前に必ず収穫前日数を確認する。)
そうか病	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・10月の降水量は平年並か少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内の排水、通風を良くする。 ・発病した葉や果実を取り除き、防除を徹底する。
ミカンハダニ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。 ・ミカンサビダニの発生が見込まれるほ場では、サビダニにも効果のある剤(コロマイト水和剤、ダニエモンフロアブル、スターマイトプラスフロアブルなど)を使用する。

2 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回って発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

B 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
ミカンキイロ アザミウマ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、ビニル袋に入れたり、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、作物を加害するだけでなく、きく、なす、トマト、ピーマンなどの作物にトマト黄化えそウイルス(TSWV)を媒介する。
ハダニ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・露地なす巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温、乾燥条件で多発する。

2 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は少なかった。 ・10月の降水量は平年並か少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまめに摘葉を行い、過繁茂にならないようにする。 ・発生初期の防除を徹底する。 ・草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。 ・QoI剤(アミスター20フロアブル、プリントフロアブル25など)の連用は避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。 ・ブルームレス台木では、うどんこ病が発生しやすい。
炭そ病・ 褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス内の過湿を避ける。 ・窒素過多は発生を助長するので、窒素肥料の過用に注意する。 ・QoI剤(アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルなど)の連用は避ける。

べと病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス内の過湿を避ける。 ・肥切れすると発病しやすいので、肥培管理に注意する。 ・QoI 剤(アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、ホライズンドライブフロアブル)の連用は避ける。
ミナミキイロアザミウマ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・施設では、開口部を寒冷紗(0.4mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。特に、赤色ネットによる侵入防止効果は高い。
ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスの開口部をネット等(2mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・食害株の幼虫を捕殺する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス抑制栽培の定植直後に発生が認められることが多い。
コナジラミ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・施設では、開口部をネット等(0.4mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草に努める。

3 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・ すすかび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培では換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。 ・下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉し、病葉はハウス外に持ち出し処分する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナジラミ類 ・ TYLCV(トマト 黄化葉巻 ウイルス)	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、コナジラミ類の発生はやや少なく、トマト黄化葉巻病の発生は見られなかった。 ・施設トマトの黄色粘着トラップの誘殺虫数は、やや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コナジラミ類の発生初期の防除に努める。 ・施設では、開口部をネット等(0.4mm 目合)で被覆し、コナジラミ類成虫の侵入を防止する。ほ場周辺の除草に努める。 ・コナジラミ類の防除は、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・トマト黄化葉巻病に感染すると、治療薬はないので感染株はすぐに処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)を媒介する。

4 あぶらな科野菜 (キャベツ・しろな等)

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ、予察灯での誘殺虫数は平年並であった。 ・巡回調査では、平年並の発生であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、薬剤抵抗性の系統が増加している。 ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
ハイマダラノ メイガ (ダイコンシ ンクイ)	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予察灯での誘殺虫数は、平年並～やや多かった。 ・巡回調査(キャベツ)では、一部のほ場で発生はやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。 ・セル成型苗で発生すると欠株を生じるので、発生初期の防除を徹底する。

C 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類・ウイルス病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場周辺の除草に努める。 ・発生初期の防除を徹底する。 ・施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ウイルス病が発病した株は、まん延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス(CMV)などがある。
ハダニ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除を徹底する。 ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。 ・卵～成虫の各ステージに応じた薬剤を選定する。
ハスモンヨトウ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・施設では、開口部をネット等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・黄色灯を終夜点灯し、成虫の行動や産卵を抑制する。 <p>※水稲やきくは、夜間に強い光を受けると開花しない。周辺にこのような作物がある場合は黄色灯の設置方向に注意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
シロイチモジヨトウ	多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は多かった。 ・フェロモントラップへの誘殺虫数は多かった。 ・9月上旬から増加傾向の地点が多い。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・施設では、開口部をネット等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・黄色灯を終夜点灯し、成虫の行動や産卵を抑制する。 <p>※水稲やきくは、夜間に強い光を受けると開花しない。周辺にこのような作物がある場合は黄色灯の設置方向に注意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

オオタバコガ	並 ～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップへの誘殺虫数は並～やや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生予測モデルでは、本年第4世代の発生ピークは10月中旬と推定される。従って防除適期はその7～10日後の10月下旬である。 ・発生初期(若齢幼虫期・食入前)に防除を徹底する。 ・施設では、開口部をネット等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ハモグリバエ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスの開口部を寒冷紗等(1mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

最新の防除指針を掲載しています。



●病害虫発生情報メールサービス

申込先：大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ

メールサービス担当

TEL：072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailemail/mailmailmousikomai.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。



●おおさかアグリメール

申込先：大阪府立環境農林水産総合研究所

経営企画室 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL：072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。



●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)

